

「三笠中学校の山田楽伝承活動の取組」

1 学校名

阿久根市立三笠中学校

2 学年・人数

1年生（計36人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

令和元年5月9日 総合的な学習の時間（本校体育館）

令和元年5月30日 総合的な学習の時間（本校体育館）

令和元年6月26日 総合的な学習の時間（本校校庭）

令和元年7月5日 かさせこ作り（本校武道館）

令和元年9月5日 総合的な学習の時間（本校校庭）

令和元年9月12日 総合的な学習の時間（本校校庭）

（2）発表の日時・場所

令和元年9月15日 体育大会（本校校庭）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

（1）名称

山田楽（やまだがく）

（2）由来

戦国時代，山田昌巖が士気を高めると共に，勝利を祈願して鉦と太鼓による舞を考案したのが始まりだと伝えられている。創始者の山田昌巖が本校校区の古里集落出身であることを由来とし，古里地区を中心に伝統継承している。

本校では，平成9年6月16日から生徒による伝承活動に取り組み，今年で19年目になる。1年生が毎年，山田楽保存会（松崎勝雄氏）から学び，体育大会や地域や市の行事で披露している。

（3）構成等

鉦，大太鼓，小太鼓，妙八で構成されており，掛け声をかけて，山田跳びを行いながら踊る。

衣装は，鉦は黒のかすりに足袋，大太鼓は法被に紅白のたすき，手甲，脚絆，すがさ風の傘に飾りをつけ，わらじを身に付ける。小太鼓は背中に髪飾りつけをした三本の竹わくを背負い，法被を着て，手甲，脚絆，わらじを身につけている。妙八は黒のかすりに手甲，脚絆，紫の布を頭に巻き長くたらす。

5 保存会や地域との連携の具体

- ・ 年間に数回の山田楽保存会による指導を受けている。
- ・ 本校に入学する生徒のうち，脇本小学校卒業生は，小学校でも伝承活動として取り組んでいる。平成28年度より，本校に入学してくる折多小学校の児

童も夏休みに脇本小学校の児童と合同練習を行うようになった。

- ・ 平成27年度より県立鶴翔高等学校で山田楽の伝承事業が始まり，本校出身者が中心となって活躍している。
- ・ 古里校区では，地域の保存会により山田楽の伝承活動が行われているが，古里校区に住む本校生徒は保護者と練習に参加するなど，伝承活動を行っている。
- ・ 太鼓や大太鼓が着る法被は，大漁旗を保護者が縫ったものである。
- ・ 生徒は，高校に進学後も伝承活動の中心として活躍している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- ・ 大太鼓のかさにつける飾り等は，毎年，山田楽保存会の指導のもと，生徒と保護者が一緒に作成している。
- ・ 山田楽保存会と相談を行いながら，消耗していく小道具などを計画に購入をしている。
- ・ 小学校と連携し伝承に取り組んでおり，太鼓などの道具を脇本小学校に貸したり借りたりして，不足分を互いに補っている。
- ・ 脇本小学校と折多小学校で交流により，山田楽の伝承活動を行ったことで中学生になったときの習熟の差や戸惑いが解消できた。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- ・ 山田楽保存会の努力により，地域に根付いた活動となっている。
- ・ 生徒は山跳びを取得するため，互いに教えあう姿がみられ，生徒間の交流が深められている。
- ・ 地域の指導者は高齢となり，今後の生徒への指導が困難になってきている。
- ・ 保護者に手伝ってもらいながら，衣装を着けていくと気が引き締まる思いがした。
- ・ かさをつけると，足元しか見えないので周りの動きと音に耳を傾けながら踊った。踊り終えて，かさをとったとき，充実感があつた。
- ・ 保護者が生徒の着付けをしたが，慣れておらず，地域の指導者により確認をしていただき助かった。